

平成31年度 推薦入試試験問題(文学科 英語英文学専攻) 解答例

問1 (30点)

【採点のポイント】

- ・ 否定的な固定観念が引き起こす問題について具体的に説明しているか。
- ・ 高校で習得する程度の語い力, および日本語表現能力があるか。
- ・ 240字以上~270字以内で書いているか。

【解答例】

否定的な固定観念は人種差別主義や「ヘイトスピーチ」の原因となる。例えば、アメリカにいる黒人(アフリカ系アメリカ人)に対する固定観念として、彼らは無学で暴力的だという概念がある。このような固定観念があることで、彼らは仕事を得ることや特定の地域に住むことは困難になるという問題がある。もう一つの問題としては、マスメディアによるイスラム教徒の描かれ方がある。テロ攻撃に関する多くの報道が、全てのイスラム教徒がテロリストであると思わせるものであった。この恐ろしい行為に加担していない大部分のイスラム教徒にとってそれは非常に不当な報道である。(267字)

問2 (70点)

【採点のポイント】

- ・ 筆者の見解を踏まえているか。
- ・ 自分の考えを具体的に述べているか。
- ・ 文章を論理的に構成しているか。
- ・ 高校で習得する程度の語い力, および日本語表現能力があるか。
- ・ 540字以上~600字以内で書いているか。

【解答例】

筆者は、固定観念というものは、世界に対して表面的な見方を与えるに過ぎないものであり、固定観念でのみ他者を判断すると、実際の生活にある複雑な問題を見逃す恐れがあると述べている。固定観念にとらわれないようにするために、以下の2点を提案したい。

まず、私たちは常識を批判的に分析する習慣をつけるべきだと思う。社会で当然と見なされていることに疑問を持ち、その常識は個々の問題に照らした時に本当に現実を映したものなのか、一つ一つ立ち止まって考える習慣をつけることが必要だ。筆者によると、人物に対して与えられる固定観念は、人種、文化、ジェンダー、国籍、

年齢に関する概念を含む。例えば、「日本人は寿司を好む」や「アメリカ人はハンバーガーが好き」と言われると、その国の食文化や人間を少しだけ理解できたような気持ちになる。しかし、日本人全員が寿司が好きかと言えば、そうではないだろう。アメリカ人に関しても同様のことが言えると思う。

もう一つは、今世界で起こっている社会問題の背後にある歴史を学ぶべきだと思う。例えば、アメリカの建国の歴史を知っていれば、アメリカが現在抱える人種の問題についてよりよく理解できるだろう。固定観念は世界を理解するための便利な考えの枠組みだが、それにばかり頼らず、じっくりと腰を据えて世界の過去と現在を見つめる視点を持つべきだと考える。(585字)